I　研究所の概要

1．組　　織

- 所長
  - 運営委員会
  - 協議員会
  - 研究部門
    - 形態基礎（昭和42年度設置）
    - 神経生理（　〃　）
    - 心理（昭和43年度設置）
    - 社会（　〃　）
    - 変異（昭和44年度設置）
    - 生活史（昭和45年度設置）
    - 生理（昭和46年度設置）
    - …生化学（増設予定）
    - …系統（　〃　）
  - 附属施設
    - 幸島野外観察施設（昭和43年度設置）
    - サル類保健飼育管理施設（昭和44年度設置）
    - …情報資料センター（増設予定）
  - 事務部
    - 庶務掛（昭和42年度設置）
    - 会計掛（　〃　）
    - …共同利用掛（増設予定）
    - …工営掛（　〃　）

現　　員

区分／年度	教授	助教授	助手	小計	事務系職員	非常勤職員	小計	合計
昭和46年度	6	6	18	30	26	17	43	73

2．予算概況

区分／年度	経常費			共同利用研究施設運営費		創設設備費（増設）	小計	科学研究費	合計
	人件費	旅費[1]	物件費	物件費	旅費				
	千円	千円	千円	千円	千円	千円	千円	千円	千円
昭和46年度	67,166	5,007	50,525	23,034	4,196	16,032	165,960	15,120	181,080

[1] 経常費の旅費には，外国旅費，在外研究員旅費および赴任旅費を含む。

科学研究費

年度・種類	研究課題	研究代表者	補助金額
(昭和46年度)			円
特定研究 (2)	サルの実験的不随意運動症発現のニューロン機構の研究	久保田 競	3,000,000
一般研究 (A)	霊長類の行動と前頭葉の働きとの関係の神経生理学心理学的研究	時実 利彦	1,000,000
〃 (B)	随意運動の発現調節機序の神経生理学的研究	久保田 競	3,160,000
〃 (C)	ニホンザルの集団遺伝学的研究	野沢 謙	730,000
〃 (C)	霊長類とくにニホンザルの伝達機構の総合的研究	江原 昭善	700,000
奨励研究 (A)	霊長類の下肢骨の力学的研究	渡辺 毅	230,000
〃 (A)	家畜集団中の有害劣性遺伝子量の測定に関する研究	庄武 孝義	200,000
特定研究 (1)	脳障害の基礎的研究	時実 利彦	1,500,000
〃 (1)	脳死と脳波に関する基礎的研究	時実 利彦	1,000,000
総合研究 (A)	下北半島ニホンザル生息地における除草剤による環境汚染の影響についての生態学的研究	川村 俊蔵	2,750,000
〃 (B)	海外学術調査「東アフリカにおけるテレメトリ法を中心とした森林性霊長類の生態学的研究」の成果のとりまとめ	河合 雅雄	850,000
〃 (A)	ニホンザル嵐山A群の形態学的，遺伝学的，疫学的，社会学的総合研究	江原 昭善	1,200,000
	計		16,320,000

3. 研究設備

○形態基礎研究部門

X線装置（硬および軟X線用），人類学的計測機器1式，脳波計（13ch. 多用途），即像式電磁オッシロスコープ（12 ch.），トレッドミル（H型：傾角45°および10,°0—20㎞/h. およびM型：走向面360°回転，0—10㎞/h.），筋電図用小型テレメーター（4 ch.），筋電積分計（10ch.），多用途監視記録装置（4 ch.），VTR，16㎜カメラ，静歪み測定装置（1 ch.），20点切換平衡箱

○神経生理研究部門

東芝ベックマン・ガス分析器（LB—1），加算用コンピューター（ATAC—501），小型コンピューター（PDP—12A），脳波計（9 ch.・2台），データーレコーダー（4 ch.・2台， 7 ch.・1台）， 2ビームシンクロスコープ（6台）

○心理研究部門

スキナーボックス（パネル押し・レバー引き両用：レバーは出し入れ可能で，ディスクリート・トライアルの実験可），コントロールシステム（強化スケジュール，刺激提示順序および提示時間等のプログラム可），多用途監視装置（各種電気生理現象測定可：脳波，筋電，心電など，データー・レコーダー，電気刺激装置つき），VTRシステム（タイム・サンプリング可），ポール引き場面での索引力測定装置（力のレベルに応じた強化スケジュール可）

○社会研究部門

16㎜シネカメラ・プロジェクター（ベルハウエル），テレメーター装置一式（位置探知用，アクティビティ測定用），ビデオコーダー一式，デンスケ録音機

○変異研究部門

電気泳動装置（澱粉及び寒天），血液型判定用具，フリーザー，低温恒温器，乾勢滅菌器，ヴィデォ（デンスケ・モニター），Colobus 頭骨標本約200個，登山・キャンピング用具一式

○生活史研究部門

16㎜シネカメラ（Canon），タナック・カード・セレクター，モーター・ドライブ装置（Nikon —F）

○生理研究部門

東芝ベックマン・ガス分析器（ＬＢ—１），東芝ベックマン酸素分析計（Ｅ—２），多用途監視装置（8 ch. 脳波，心電図，呼吸，子宮収縮，体温など測定可能）

○幸島野外観察施設

ジープ，ボート

○サル類保健飼育管理施設

温度記録計（12打点，0～50°C），動作記録計，高感度記録計，トータルカウンター，フレームフォトメーター，電気泳動装置，ショランダーガス分析装置，螢光分光々度計，分光々度計，自動直示天秤，位相差倒立顕微鏡，人工気象室（0°C～40°C可変），ＰＨメーター，ディープフリーザー

4. 研究活動

形態基礎研究部門

近藤四郎・岩木光雄・岡田守彦
渡辺　毅

研究概要

1）霊長類の姿勢およびロコモーションの生機構学的研究[1]

近藤四郎・岡田守彦・早川清治[2]

1．訓練された霊長類の各種姿勢・ロコモーションを形態・生態学的側面と関連させつつ，身体各部の運動，筋活動，力学的要因等の面から総合的に分析し，種間比較およびヒトや他の四足動物との比較を行なっている。

2．テレメーターを用いて，フリーな運動場面における筋活動を定量的にとらえるための予備研究。

2）マカクの形態と体温調節の関連性について[3]

岡田守彦・近藤四郎

1．ニホンザルの体表面積を実測し，体重より体表面積の推定を試みた。

2．ニホンザル・アカゲザル・カニクイザル・タイワンザル等マカク類の寒冷血管反応をしらべ比較考察を行なっている。

3）ニホンザルに関する形質人類学的研究

岩本光雄

現生ニホンザルの形質を，できるだけ種内変異を考慮に入れて，生体計測，皮膚降線系の調査，その他の方法にもとづいて明らかにし，また日本における化石マカクについても若干の研究を進めている。最終的には，マカクの１種としてのニホンザルの形質的特徴を明らかにするとともに，この種の系統発生学的成立について考察することを目的としている。

4）霊長類の運動特性のキネシオロジー的研究

岡田守彦

霊長類の動作，表情，スキル等を支える運動特性を筋電図によるキネシオロジーの側面より追求し，ヒトとの比較を行なうことを目的としている。

5）霊長類下肢の形態学的研究

渡辺　毅

移動様式としての直立二足歩行性の獲得がホミニゼーションの過程において，第一義的役割りをはたしたことが近年，次第に明らかにされてきた。直立二足歩行がいかにして獲得されたかを明らかにするためには，現生霊長類における種々の移動様式と下肢構造の関連を調べ化石霊長類の移動様式を考察する必要がある。このような観点から，現在霊長類の下肢とくに骨盤とそれに付着する筋の比較解剖学的研究をおこなっている。

研究発表（1971年４月～1972年３月）

論文

1）ニホンザルの Bipedalism について

近藤四郎・石田英実

〔姿勢シンポジウム論文集，209—216 (1971)，姿勢研究所〕

2）姿勢保持における筋負担

岡田守彦

〔同上　25—36〕

3）Morphological studies of *Macaca Fuscata* : VI. Somatometry

Mitsuo Iwamoto

〔*Primates*, 12 : 151—174 (1971)〕

4）静岡県岩水寺および愛知牛川より出土のマカク化石について——主として歯の大きさにもとづく形態学的考察——

岩本光雄・高井冬二

〔人類学雑誌，80：1—10 (1972)〕

5）Two macaque fossil teeth from the Japanese pleistocene.

M. Iwamoto and Y. Hasegawa

〔*Primates*, 13 : 77—81 (1972)〕

6）柳ケ坪遺跡出土の人骨について

江原昭善・渡辺毅

〔柳ケ坪遺跡，22—24 (1971)，愛知県東海市教育委員会〕

学会発表

1）ニホンザルの体表面積

---

[1] 石田英実（京大・理）との共同研究
[2] 文部技官
[3] 登倉尋実（サル類保健飼育管理施設）との共同研究。